

病理学第一

1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	1人（0人）
医員	1人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	6人（1人）
研究生	3人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	2人
その他（技術補佐員等）	3人
合 計	18人

2 教官の異動状況

梶村 春彦（教授）（H7～現職）

内藤 恭久（助教授）（H7～現職）

田中 正光（助手）（H9～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	12編（0編）
そのインパクトファクターの合計	60.43
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	17編（17編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	3編（0編）
そのインパクトファクターの合計	3.71

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Song J-P, Kitayama Y, Igarashi H, Guo R-J, Wang Y-J, Kobayashi T, Konno H, Kataoka H, Tanaka M, and (2003) Centromere numerical abnormality in the papillary, papillotubular

type of early gastric cancer, a further characterization of a subset of gastric cancer. *Int. J. Oncology*. 21: 1205-1211.

2. Tanaka M, Kamo T, Ota S and Sugimura H (2003) Association of Dishevelled with Eph tyrosine receptor and ephrin mediates cell repulsion. *EMBO J*. 22: 847-858.
3. Wang Y-J, Ota S, Kataoka H, Kanamori M, Li Z-Y, Band H, Tanaka M and Sugimura H (2002) Negative regulation of EphA2 receptor by Cbl. *BBRC*. 296: 214-220.
4. Wang Y, Song J-P, Ikeda M, Shinmura K, Yokota J and Sugimura H (2002) Iie-Leu Substitution (1415L) in Germline E-cadherin Gene (CDH1) in Japanese Familial Gastric Cancer. *Jpn. J. Clin Oncol*. 33 (1): 17-20.

インパクトファクターの小計 [21.968]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Kataoka H, Tanaka M, Kanamori M, Yoshii S, Ihara M, Wang Y-J, Song J-P, Li Z-Y, Arai H, Otsuki Y, Kobayashi T, Konno H, Hanai H, Sugimura H (2002) Expression profile of EFNB1, EFNB2, two ligands of EPHB2 in human gastric cancer. *J. Cancer Res Clin Oncol*. 128: 343-348.
2. Furuta T, Shirai N, Takashima M, Xiao F, Sugimura H (2002) Effect of Genotypic Differences in Interleukin-1 Beta on Gastric Acid Secretion in Japanese Patients Infected with *Helicobacter pylori*. *The American Journal of Medicine*. 112: 141-3. 2002
3. Furuta T, Emad M, El-omar, Xiao F, Shirai N, Takashima M, Sugimura H (2002) Interleukin 1 β Polymorphisms Increase Risk of Hypochlorhydria and Atrophic Gastritis and Reduce Risk of Duodenal Ulcer Recurrence in Japan. *Gastroenterology*. 123: 92-105.
4. Yokota N, Nishizawa S, Ohta S, Date H, Sugimura H, Namba H, Maekawa M. (2002) Role of WNT Pathway in Medulloblastoma Oncogenesis. *Int. J. Cancer*. 101: 198-201.

インパクトファクターの小計 [25.553]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Gao C, Takezaki T, Wu J, Liu Y, Hu X, Xu T, Tajima K, Sugimura H. (2002) Interaction between Cytochrome P-450 2E1 Polymorphisms and Environmental Factors with Risk of Esophageal and Stomach Cancers in Chinese. *Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention*. 11: 29-34.
2. Sunaga N, Kohno T, Yanagitani N, Sugimura H, Kunitoh H, Tamura T, Takei Y, Tsuchiya S, Saito R, Yokota J (2002) Contribution of the NQO1 and GSTT1 Polymorphisms to Lung Adenocarcinoma Susceptibility. *Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention*. 11: 730-738.
3. Kobayashi T, Sugimura H, Kimura T. (2002) Total gastrectomy is not always necessary for advanced gastric cancer of the cardia Digestive Surgery. 19: 15-21.

4. Takezaki T, Gao CM, Jian-zhong, Wang JD, Ding JH, Liu YT, Xu H, Xu TL, Tajima K, Sugimura H. (2002) hOGG1 ser326cys polymorphism and modification by environmental factors of stomach cancer risk in Chinese. Int. J. Cancer. 99: 624-627

インパクトファクターの小計 [12.909]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 田中正光, 梶村春彦 Ephファミリーレセプターと細胞移動 (2002) 実験医学 20 (2): 147-153
 2. 五十嵐久喜 北山康彦 梶村春彦 ホルマリン固定パラフィン切片を用いたFISHに対する可視化 (Chromosome in situ hybridization法: CISH) の検討 (2002) 医学検査 51 (3): 212-215
 3. 大橋瑠子, 梶村春彦, 寺田 護, 小林 寛, 小川 博, 真砂園真, 山田 健, 丹羽 宏 術中迅速診断が有用であった肺イヌ糸状虫症の2典型例 (2002) 日本臨床寄生虫学会誌 別冊 13 (1): 92-94.
 4. 内藤恭久 私の行っている解剖生理学および病理学講義の実景 (2002) 看護教育 43 (1): 70-75.
 5. 内藤恭久 解剖生理学と病理学の意義とその背景にあるもの ①看護教育システムと看護基礎教科 (2002) 看護教育 43 (2): 150-155.
 6. 内藤恭久 解剖生理学と病理学の意義とその背景にあるもの ②教官の抱える教育問題と看護基礎教科 (2002) 看護教育 43 (3): 228-232
 7. 内藤恭久 病態生理学総論-病理学をふくめて (2002) 看護教育 43 (1): 314-318
 8. 内藤恭久 看護師国家試験は競争試験ではない (2002) 看護教育 43 (4): 373-375
 9. 内藤恭久 細胞の内部環境(1) 体液とはなに? (2002) 看護教育 43 (5): 404-409
 10. 内藤恭久 細胞の内部環境(2) 体液の均衡・不均衡 (2002) 看護教育 43 (6): 506-511
 11. 内藤恭久 細胞の内部環境(3) 酸・塩基平衡 (2002) 看護教育 43 (7): 592-597
 12. 内藤恭久 血液循環(1)-心臓の収縮機構 (2002) 看護教育 43 (8): 738-743
 13. 内藤恭久 血液循環(2)- (2002) 看護教育 43 (9):
 14. 内藤恭久 血液循環(3)-血液循環障害の病態生理 (2002) 看護教育 43 (10): 896-901
 15. 内藤恭久 神経系疾患を理解するための脳・脊髄の仕組み (2002) 看護教育 43 (12): 1096-1102

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 佐藤直美, 加藤あい, 梶村春彦 遺伝医療における遺伝カウンセリングについての医療の認識 (2002) 家族性腫瘍 2(1): 20-25.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 鈴木誠, 梶村春彦 放射線治療に必要な癌の病理学 (2002) 癌・放射線治療法2002

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Ohta S, Nihizawa S, Namba H, Sugimura H (2002) Bilateral cavernous sinus actionmycosis resuloting in painful ophthalmoplegia J. Neurosurg. 96: 600-602.
2. Nakamura T, Maruyama K, Kashiwabara H, Sunayama K, Ohata K, Fukazawa A, Yasumi K, Sugimura H, and Nakamura S. (2002) Diverticulitis causing a high serum level of carbohydrate antigen 19-9: Report of case. Surg Today. 32: 282-284.
3. Ohta M, Konno H, Tanaka T, Baba M, Kamiya K, Mitsuoka H, Unno N, Sugimura H, Nakamura S. (2002) Gastrojejunocolic fistula after gastrectomy with Billroth II reconstruction: report of a case. Surg Today. 32 (4): 367-370.

インパクトファクターの小計 [3.708]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数（出願中含む）	1件

1. 二重染色によるガン診断方法

特願 2002-324433

2002年11月7日

Y2002-P113

5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	2件 (1,690万円)
(2) 厚生科学研究費	3件 (380万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (万円)
(4) 財団助成金	2件 (420万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	8件 (644万円)

(1) 文部科学省科学研究費

梶村春彦 (代表者) 特定領域研究 (C) (2) 「代謝酵素遺伝子多型に基づいた宿主・環境相互作用と発癌感受性の研究」1,460万 (継続)

田中正光 (代表者) 基盤研究 (C) (2) 「nm23-H1による低分子量G蛋白質の制御を介した、腫瘍の浸潤、転移への作用機序」230万 (新規)

(2) 厚生科学研究費

梶村春彦 (分担者) 胃がんの発生・進展に関わる要因の把握とその診療への応用に関する研究班「家族集積性胃がんの分子病理学的研究」140万 (継続) 代表者 日本医科大学医学部教授 松倉則夫

梶村春彦 (分担者) 多目的コホートによるがん・循環器疾患の疫学的研究班「コホート研究における遺伝子指標の活用に関する研究」100万 (継続) 代表者 国立がんセンター研究所支所部長 津金昌一郎

田中正光 (分担者) 肺線がんの発生と特性の解析に関する研究班「肺組織発生に関与する遺伝子の研究」140万 (継続) 代表者 国立がんセンター研究所部長 横田淳

(4) 財団助成金

梶村春彦 (代表者) 喫煙科学研究財団 病理学研究助成金「非遺伝的腫瘍の遺伝的マーカーの評価」220万 (継続)

梶村春彦 (代表者) 財団法人しずおか産業創造機構 産学連携等研究費「長期保存病理検体の染色体解析の新技術について」200万 (新規)

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	9件
(6) 一般演題発表数	1件	

(1) 国際会議等開催・参加：

4) 一般発表

ポスター発表 片岡英樹，第93回米国癌学会年次総会，2002. 4. 10., サンフランシスコ（米国）

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

梶村春彦 がんの疫学領域シンポジウム 2002. 11. 5. 岐阜（長良川国際会議場）

2) シンポジウム発表

梶村春彦 検診学会 2002. 8. 30 東京（都市センター）

3) 座長をした学会名

梶村春彦 日本病理学会

梶村春彦 日本癌学会

5) 役職についている学会名とその役割

梶村春彦 日本病理学会 学術評議員

梶村春彦 日本癌学会 評議員

梶村春彦 日本胃癌学会 評議員

梶村春彦 家族性腫瘍研究会 世話人

梶村春彦 大腸癌研究会 施設代表者

梶村春彦 分子病理研究会 世話人

梶村春彦 日本癌分子疫学研究会 幹事/広報

内藤恭久 日本病理学会 評議員

田中正光 日本病理学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	3件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

梶村春彦 Pathology International, Editorial Board
Japanese Journal of Cancer Research, Editorial Board
Journal of Cancer Research and Clinical oncology, Editorial Board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

数回 JBC, Carcinogenesis, Cancer Research, JJCR, Path Int., Cancer Letters, JCRCO

9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	6件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	1件

(1) 国際共同研究

ブラジル日系人の胃癌の遺伝的感受性
江蘇省上部消化管がんの遺伝的感受性
Cyp1A1多型のpopulation study
肺内分泌腫瘍の包括的遺伝子解析研究の病理 (NCI)
家族性乳癌の分子疫学 (フィリピン)
日米医学研究会環境ゲノミックス・発がん専門部会研究員

(2) 国内共同研究

遺伝子多型とがん感受性／家族性胃癌の研究；肺癌大腸癌の包括的遺伝子発現研究

(3) 学内共同研究

消化管がん呼吸器がんの分子病理学的性格及び分子疫学

10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	0件

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 前年度から引き続きがんの感受性にかんする研究成果の発表（文献参照）をした。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 病理標本を用いた高感度FISHの二重染色法を開発し、特許出願した。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 継続して，がん感受性に関する国際研究をおこなっており，生物学的分野の研究中心となっていた教員が内外より高く評価された結果，栄転（国立がんセンター研究所室長）し，新たな研究者が加わった。

15 新聞，雑誌等による報道